

第1問 (20点)

次の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目の中から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 栃木株式会社の株式2,000株を@¥1,500で取得し、手数料¥200,000とともに当座預金口座から支払った。なお、栃木株式会社の発行済株式総数は8,000株であり、当社はこれ以外に株式を保有していない。
 - ア. 売買目的有価証券 イ. 支払手数料 ウ. 当座預金 エ. 子会社株式 オ. 満期保有目的債券
 - カ. 関連会社株式

2. 山梨株式会社は、顧客に対するサービス提供が完了したため、契約額¥570,000（支払いは翌月末）を収益に計上した。これにともない、それまでに仕掛品に計上されていた諸費用¥285,000と追加で発生した外注費¥133,000（支払いは翌月30日）との合計額を原価に計上した。
 - ア. 売上 イ. 給料 ウ. 売掛金 エ. 役務収益 オ. 仕掛品 カ. 役務原価 キ. 未払金 ク. 買掛金

3. 従業員1名が退職し、退職一時金として¥1,500,000を現金で支払った。なお、退職給付規定にしたがって適正に処理された退職給付引当金の残高が¥6,000,000ある。
 - ア. 退職給付費用 イ. 現金 ウ. 普通預金 エ. 当座預金 オ. 退職給付引当金 カ. 給料

4. 当社は保険会社と保険に関する契約を行い、今後6か月分の保険料¥600,000を当座預金口座から支払った。なお、保険料については、総額をいったん資産計上し、資産計上した保険料のうち当月分（1か月分）については費用計上した。
 - ア. 保険料 イ. 未払費用 ウ. 長期前払費用 エ. 前払費用 オ. 普通預金 カ. 当座預金

5. 沖縄株式会社（年1回、9月末決算）は、×7年10月1日に、それまで使用していた備品を事業の用から外し不用品として売却することとした。売却先が未定のため、見積売却価額¥150,000をもって貯蔵品勘定に計上する。なお、この備品は、×4年10月1日に購入（取得原価¥500,000）した資産であり、残存価額は取得原価の10%、耐用年数は5年、償却方法は定額法、記帳法は間接法によっている。なお、10月1日分の減価償却費については解答上考慮する必要はないものとする。
 - ア. 備品 イ. 減価償却費 ウ. 備品減価償却累計額 エ. 固定資産売却損 オ. 固定資産除却損
 - カ. 貯蔵品

第2問 (20点)

次の〔資料〕に基づいて、下記の〔設問〕に答えなさい。なお、会計期間は1年(決算日は3月31日)であり、総勘定元帳は英米式決算法によって締め切っている。また、〔資料Ⅰ〕より前に外貨建取引は生じていないものとする。

〔資料Ⅰ〕 外貨建取引等

- ×2年10月18日、アメリカのO社から商品200ドルを輸入し、代金は翌×3年4月30日に支払うこととした。
- ×2年12月9日、アメリカのI社に商品300ドルを輸出し、代金は翌×3年5月31日に受け取ることにした。
- ×3年2月28日、I社に対する売掛金300ドルについて、為替予約を付した。なお、為替予約にともなう差額はすべて当期の損益として処理する。
- ×3年3月31日、決算を迎えた。
- ×3年4月30日、O社に対する買掛金200ドルについて、代金を小切手で支払った。
- ×3年5月31日、I社に対する売掛金300ドルについて、代金が当座預金口座に振り込まれた。

〔資料Ⅱ〕 為替相場

	直物為替相場	先物為替相場
×2年10月18日	106円/ドル	112円/ドル
×2年12月9日	109円/ドル	110円/ドル
×3年2月28日	111円/ドル	108円/ドル
×3年3月31日	110円/ドル	106円/ドル
×3年4月30日	107円/ドル	109円/ドル
×3年5月31日	105円/ドル	111円/ドル

〔設問〕

- 問1 ×2年度(×2年4月1日～×3年3月31日)の損益計算書における為替差損または為替差益の金額を答えなさい。なお、解答の際は答案用紙の損・益のどちらかを丸で囲むこと。
- 問2 ×2年度(×2年4月1日～×3年3月31日)の貸借対照表における買掛金の金額を答えなさい。
- 問3 答案用紙に示す売掛金勘定および為替差損益勘定への記入を完成しなさい。ただし、摘要欄には次の中から最も適切な用語を選び、記号で答えること。
- ア. 次期繰越 イ. 為替差損益 ウ. 売掛金 エ. 諸口 オ. 前期繰越 カ. 売上 キ. 買掛金
ク. 損益
- 問4 ×3年度(×3年4月1日～×4年3月31日)の損益計算書における為替差損または為替差益の金額を答えなさい。なお、解答の際は答案用紙の損・益のどちらかを丸で囲むこと。
- 問5 I社に対する売掛金300ドルに付した為替予約について、×3年2月28日ではなく、取引発生日(×2年12月9日)に行っていたとした場合、×2年度(×2年4月1日～×3年3月31日)の損益計算書における為替差損または為替差益の金額を答えなさい。なお、解答の際は答案用紙の損・益のどちらかを丸で囲むこと。

第3問 (20点)

以下に示した〔資料1〕決算整理前残高試算表ならびに〔資料2〕決算整理事項およびその他の修正事項にもとづいて、答案用紙の損益勘定、繰越利益剰余金勘定および貸借対照表の記入を行いなさい。なお、会計期間は×3年4月1日から×4年3月31日までの1年である。

〔資料1〕

残高試算表

×4年3月31日

借方	金額	貸方	金額
現金	2,346,000	支払手形	2,585,600
当座預金	837,500	買掛金	1,704,000
受取手形	3,020,000	貸倒引当金	76,000
売掛金	700,000	建物減価償却累計額	540,000
売買目的有価証券	4,150,000	備品減価償却累計額	240,000
繰越商品	376,880	資本金	7,019,200
仮払法人税等	200,000	利益準備金	578,000
建物	2,400,000	別途積立金	880,000
備品	720,000	繰越利益剰余金	96,000
繰延税金資産	59,200	売上	2,991,400
仕入	1,969,820	受取手数料	349,000
給料	269,000		
保険料	7,200		
支払地代	3,600		
	17,059,200		17,059,200

〔資料2〕決算整理事項およびその他の修正事項

- 前期に発生した売掛金のうち¥60,000は、得意先が倒産したため回収不能であることが判明したので、貸倒れとして処理する。
- 当座預金口座の残高を銀行に問い合わせたところ¥930,000とのことであったので、当座預金勘定の残高との差異の原因を調べたところ、以下の事実が判明した。
 - 銀行の営業時間外の入金が¥100,000あった。
 - 買掛金支払いのため振り出した小切手¥50,000が銀行に未呈示であった。
 - 売掛金¥60,000の当座預金口座への振り込みが当社に未達であった。
 - 買掛金支払いのため振り出した小切手¥82,500が、まだ金庫に保管されていた。
- 以下の事項にもとづき、売掛金の換算を行う。なお、決算時の為替相場は1ドル¥127である。
売掛金期末残高のうち、期中にドル建てで生じた売掛金¥200,000（輸出時の為替相場は1ドル¥125）がある。
- 売上債権の期末残高に対し3%の貸倒引当金を見積る。差額補充法により処理すること。
- 期末商品棚卸高は以下のとおりであり商品ごとに評価する。売上原価の計算は仕入勘定で行い、棚卸減耗損および商品評価損は独立の科目で損益勘定に記入すること。

品名	帳簿棚卸数量	実地棚卸数量	帳簿価額	正味売却価額
A商品	790個	750個	@¥356	@¥350
B商品	410個	389個	@¥500	@¥515

なお、B商品のうち20個は品質低下を原因とする収益性の低下が発生しており、その正味売却価額は@¥319である。

6. 売買目的有価証券の内訳は以下のとおりである。決算にあたって時価法により評価替えをする。

銘柄	帳簿価額	時価	株数
甲社株式	@ ¥1,150	@ ¥1,100	1,000株
乙社株式	@ ¥1,500	@ ¥1,580	2,000株

7. 固定資産の減価償却を次のとおり行う。

建物 : 定額法、耐用年数 40年、残存価額 取得原価の10%

備品 : 定率法、償却率 25%

備品（取得原価 ¥320,000、期首減価償却累計額 ¥140,000）を当期の9月30日に ¥160,000 で売却し小切手を受け取っていたが未処理である。

8. 保険料は当期の12月1日に向こう1年分の保険料を一括して支払ったものである。

9. 地代は過去1年分として毎年同額を12月末に一括して支払っている。

10. 当期の課税所得 ¥1,055,784 に対して40%相当額を法人税、住民税及び事業税として計上する。なお、円未満の端数は切り捨てること。

11. 当期の税効果会計上の一時差異は、次のとおりである（法定実効税率は40%である）。

	期首	期末
貸倒引当金損金算入限度超過額	¥ 40,000	¥ 42,000
減価償却費限度超過額	¥108,000	¥118,800
合計	¥148,000	¥160,800

第4問 (28点)

(1) (12点)

次の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 本社から工場会計を独立させている大分製作所では、当月の機械装置の減価償却を行った。機械装置の減価償却費の年間見積額は1,680,000円である。なお、機械装置の減価償却累計額の勘定は本社で設定している。工場の仕訳を示しなさい。

ア. 機械装置減価償却累計額 イ. 売上原価 ウ. 本社 エ. 製造間接費 オ. 当座預金 カ. 仕掛品
キ. 工場

2. 主要材料31,500kg (製造指図書#11に対して6,750kg、製造指図書#12に対して17,250kg、製造指図書#13に対して7,500kg) を製造現場に払い出した。なお、主要材料の月初在庫量は7,500kg (@234円)、当月購入量は37,500kg (@252円) であり、主要材料費の計算には平均法を用いている。

ア. 材料消費価格差異 イ. 売上原価 ウ. 製造間接費 エ. 製品 オ. 材料 カ. 仕掛品 キ. 買掛金

3. 当月において製造指図書#001を販売した。当社では単純個別原価計算を採用しており、製造指図書#001に集計された製造原価は2,250,000円である。売上原価に関する仕訳を示しなさい。

ア. 製品 イ. 仕掛品 ウ. 売上原価 エ. 売掛金 オ. 売上 カ. 材料 キ. B組製品

(2) (16点)

製品Xを製造・販売する当社では、パーシャル・プランの標準原価計算制度を採用している。次の〔資料〕にもとづいて、当月の月末仕掛品原価および月次損益計算書を完成しなさい。

〔資料〕

1. 製品X 1個当たりの標準原価

直接材料費	@3,400円×2.0kg	6,800円
直接労務費	@4,000円×0.5時間	2,000円
製造間接費	@4,800円×0.5時間	2,400円
		<u>11,200円</u>

2. 当月の生産・販売実績

月初仕掛品	400個 (40%)	月初製品	600個
当月着手	5,200	完成品	4,800
合計	<u>5,600個</u>	合計	<u>5,400個</u>
月末仕掛品	800 (50%)	月末製品	1,000
完成品	<u>4,800個</u>	販売品	<u>4,400個</u>

材料はすべて工程の始点で投入している。

() 内は加工進捗度を示す。

3. 当月の実際原価

直接材料費	36,720,000円
直接労務費	10,832,000円
製造間接費	12,288,000円

4. その他の条件

- (1) 製品Xの販売単価は14,400円である。
- (2) 標準原価差異は月ごとにその全額を売上原価に賦課する。

第5問 (12点)

当社は、Z製品を製造・販売している。当月の実績は次のとおりであったとして、以下の各設問に答えなさい。なお、月初および月末に仕掛品および製品の在庫はないものとする。

〔資料〕	売上高		@800円
	原価	変動費	製造原価 @400円
			販売費 @ 40円
	固定費	製造原価	2,560,000円
		販売費・一般管理費	1,040,000円
	生産・販売量		15,000個

設問1 当月の直接原価計算方式の損益計算書を作成しなさい。

設問2 現在、次月以降の利益計画を策定中である。次月以降においても販売価格、製品単位あたりの変動費および期間あたり固定費は当月の実績どおり予定されるものとして、答案用紙の文章中の 内に適切な数量または金額を記入しなさい。

まるっと完全予想問題集
第8回 答案用紙

2 級 ①

商 業 簿 記

受験番号 _____

氏 名 _____

総合点

採点欄
第1問

第1問 (20点)

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
1	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
2	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
3	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
4	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
5	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	

受験番号 _____

氏 名 _____

2 級 ②

商 業 簿 記

第2問 (20点)

問1	¥	損・益	問2	¥
----	---	-----	----	---

問3

売 掛 金

日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方
x2	9	1	売 上	250,000					
x3	4	1	前 期 繰 越		x3	5	31	当 座 預 金	

為 替 差 損 益

日 付			摘 要	借 方	日 付			摘 要	貸 方
x3	2	28							

問4	¥	損・益	問5	¥	損・益
----	---	-----	----	---	-----

受験番号 _____

氏 名 _____

採 点 欄

第
3
問

第3問 (20点)

損		益	
3/31 仕 入		3/31 売 上	
〃 給 料		〃 受 取 手 数 料	
〃 貸 倒 引 当 金 繰 入		〃 有 価 証 券 評 価 益	
〃 商 品 評 価 損		〃 固 定 資 産 売 却 益	
〃 棚 卸 減 耗 損		〃 為 替 差 損 益	
〃 減 価 償 却 費		〃 法 人 税 等 調 整 額	
〃 保 險 料			
〃 支 払 地 代			
〃 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税			
〃 繰 越 利 益 剰 余 金			

繰越利益剰余金

6/28 利 益 準 備 金	30,000	4/1 前 期 繰 越	
〃 未 払 配 当 金	300,000	3/31 損 益	
〃 別 途 積 立 金	80,000		
3/31 次 期 繰 越			

貸借対照表

×4年3月31日

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
現 金 預 金		支 払 手 形	
受 取 手 形		買 掛 金	
売 掛 金		貸 倒 引 当 金	
有 価 証 券		未 払 法 人 税 等	
繰 越 商 品		未 払 費 用	
前 払 費 用		建 物 減 価 償 却 累 計 額	
建 物		備 品 減 価 償 却 累 計 額	
備 品		資 本 金	
繰 延 税 金 資 産		利 益 準 備 金	
		別 途 積 立 金	
		繰 越 利 益 剰 余 金	

採	点	欄
第		
4		
問		

受験番号 _____

氏 名 _____

第4問 (28点)

(1) (12点)

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
1	()		()	
	()		()	
	()		()	
2	()		()	
	()		()	
	()		()	
3	()		()	
	()		()	
	()		()	

(2) (16点)

月末仕掛品原価	円
---------	---

月次損益計算書 (一部)

(単位：円)

I 売 上 高		()
II 売 上 原 価		
月初製品棚卸高	()	
当月製品製造原価	()	
合 計	()	
月末製品棚卸高	()	
差 引	()	
標準原価差異	()	()
売上総利益		()

